

来週の「売り物記事」はこれ



2020年1月24日号 毎日新聞東京本社 編集編成局・販促宣伝部

春闘スタート

総合面 29日(水)

主要企業の労使代表らが意見を交わす経団連の「労使フォーラム」が28日始まり、2020年春闘が事実上スタートします。春闘の在り方を巡り、経団連は働きがいを高める交渉の場に変えようとしています。連合は定期昇給分を含めて4%程度の賃上げを闘争方針に掲げています。こうした姿勢の違いが各労使の交渉にどういった影響を与えるかが注目点です。

その不調、自律神経失調症？

くらしナビ面 29日(水)

めまいや動悸(どうき)など、原因のはっきりしない体調不良に悩んでいない人は少なくありません。こうした症状は「不定愁訴(しゅうそ)」と呼ばれ、自律神経失調症の可能性がります。最近頭痛がひどくなったと感じている30代前半の記者が、東京脳神経センター(東京都港区)が始めた国内初となる「自律神経チェックドック」を受けてみました。その結果を報告します



みんなのごみ・衣料編(上)

環境面 29日(水)から



国内で1年間に売れ残る衣料品は15億点に上り、その多くが新品のまま「ごみ」として燃やされたり埋め立てられたりしています。海外で大量生産する「ファストファッション」の台頭などを背景に、供給数が実際の購入数を大きく上回る傾向が顕著になり、衣料廃棄物は増加の一途。一部企業は、元のブランドの価値を落とさないよう、ブランド名の入ったタグを付け替え、値下げをして再販売するなど、売れ残った商品を捨てずに活用する取り組みを始めています。

高齢者向け「コミュニケーション型」ロボットが普及

くらしナビ面 31日(金)

高齢者の介護やその日常生活の中で、ロボットの普及が進んでいます。中でも進化が著しいのが、高齢者との間で言葉のやりとりができる「コミュニケーション型」。「会話」した相手の好みや属性などの情報を蓄積して新たな話題を提供するほか、見守りなど機能も多様化しています。介護現場の負担軽減が期待される一方、進化の途上とあって現場が戸惑う面もあるロボットを、上手に利用するコツを探ります。



論点 芸能人と薬物

オピニオン面 31日(金)



自宅で合成麻薬のMDMAやLSDを所持していたとして麻薬取締法違反の罪に問われた女優の沢尻エリカ被告の初公判が31日、東京地裁で開かれます。芸能人やスポーツ選手が、薬物犯罪によって、脚光を浴びる舞台から姿を消すことも珍しくありません。有名人の薬物事件はなぜ繰り返されるのでしょうか。NHKの大河ドラマ撮り直しも含めて考えます。

宅配便の「再配達」減らすには

くらしナビ面 2月1日(土)

インターネット通販の拡大とともに、宅配便の取り扱いが伸びています。そんな中で社会問題化しているのが、業者にのしかかる再配達の手間です。その率は15%に上ります。一度で受け取れば、配達する側も受け取る側も助かり、温室効果ガスの削減にもつながります。業者が用意している多様な受け取り方や、「贈り物はポストに入るサイズで」という提案などを取材します。



炎鵬萌え

夕刊特集ワイド 1日(土)



平幕の小兵力士、炎鵬(25)に熱視線を送る「炎鵬萌え」が増殖中です。身長は170㎝足らず、体重も100kgに満たない体格ながら、小よく大を制する相撲ぶり。その端正で甘いマスクが女性相撲ファンを魅了し、角界屈指のアイドルとなりました。ではなぜ、「炎鵬萌え」なのでしょう。大相撲解説者の舞の海秀平さん、コラムニストの能町みね子さん、漫画家のやくみつるさんに聞きます。

ジョークと生きるアラブの庶民

Sストーリー 2日(日)



中東は権威主義的な政権が多く、言論の自由は事実上ないに等しいのが実情です。こうした中、庶民は為政者やエリート層への不満を風刺に利かせた「ヌクタ」(アラビア語でジョーク)で笑い飛ばし、日々の鬱憤を晴らしています。エジプトの有力新聞に風刺画を書き続けている漫画家らの人生を交えながら、ヌクタと共にたくましく生きるアラブの人々の姿を追います。

※ 都合によっては掲載日や内容を変更することがあります。